

コネクタソンで行われる 放射線ドメインの業務シナリオ

日本IHE協会 放射線技術委員会
西田 靖彦

もくじ

- 放射線ドメインコネクタソン2024
実施プロフィール一覧
- 放射線ドメイン実施プロフィール概要
- 各プロフィールの詳細
- コネクタソン見学会説明プロフィール

放射線ドメインコネクタソン2024 実施プロフィール一覧

略称	Profile	日本名称
SWF.b	Radiology Scheduled Workflow.b	予約検査ワークフロー.b
PIR	Patient Information Reconciliation	患者情報整合性確保
ARI	Access to Radiology Information	放射線情報アクセス
PDI	Portable Data for Imaging	可搬媒体画像情報交換
REM	Radiation Exposure Monitoring	放射線被ばく管理
REM-NM	REM for Nuclear Medicine	核医学検査の放射線被ばく管理

放射線ドメイン実施プロファイル概要①

SWF.b

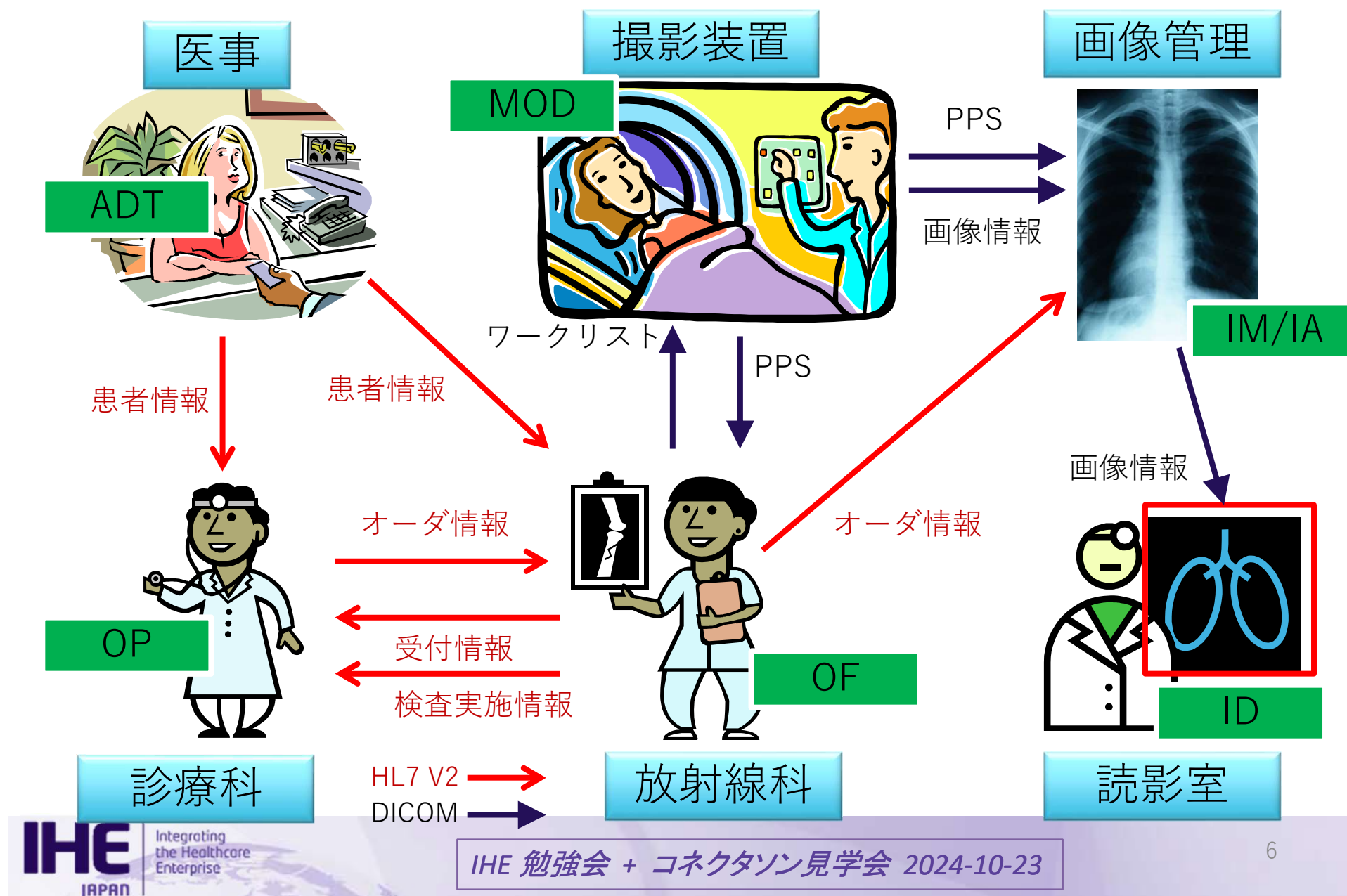
Scheduled WorkFlow.b

予約検査ワークフロー.b

SWF.bとは

- ◆ 旧SWFのHL7通信部分(V2.3.1)について、V2.5.1に改めたもの
- ◆ 放射線科部門の基本的な撮影ワークフロー
 - ◆ 最も古典的なワークフロー(SWF)
 - ◆ 検査予約が依頼科側から発行される放射線検査撮影フロー
 - ◆ 検査種別は主たる5検査種
一般撮影、一般造影、CT、MRI、超音波
- ◆ HL7系のシナリオ(上流)とDICOM系のシナリオ(下流)とが組み合わせされている。

SWF.b プロファイル



SWF.b とは(SWFと比べ)

◆SWFの後継プロファイル

- ◆ HL7通信が V2.3.1 → V2.5.1 に更新
- ◆ 日本より2012年に提案し、2013年に発行
- ◆ JAHIS放射線データ交換規約 Ver.3.2Cおよび JAHISデータ交換規約(共通編) Ver 1.3に対応
- ◆ DICOM通信系は変更なし
- ◆ 2015年からUS,EUでも試験募集開始

◆基本的なワークフローは同じ

- ◆ HL7通信の一部仕様は日本で個別に追加
⇒ TF Vol.4 JP National Extension は公開済 2016/07
- ◆ JP-NEX 発行に合わせ、受付電文の日本独自要件を
[RAD-3]電文を採用する形に変更(Ver.3.1C以降で反映)

放射線ドメイン実施プロファイル概要②

PIR

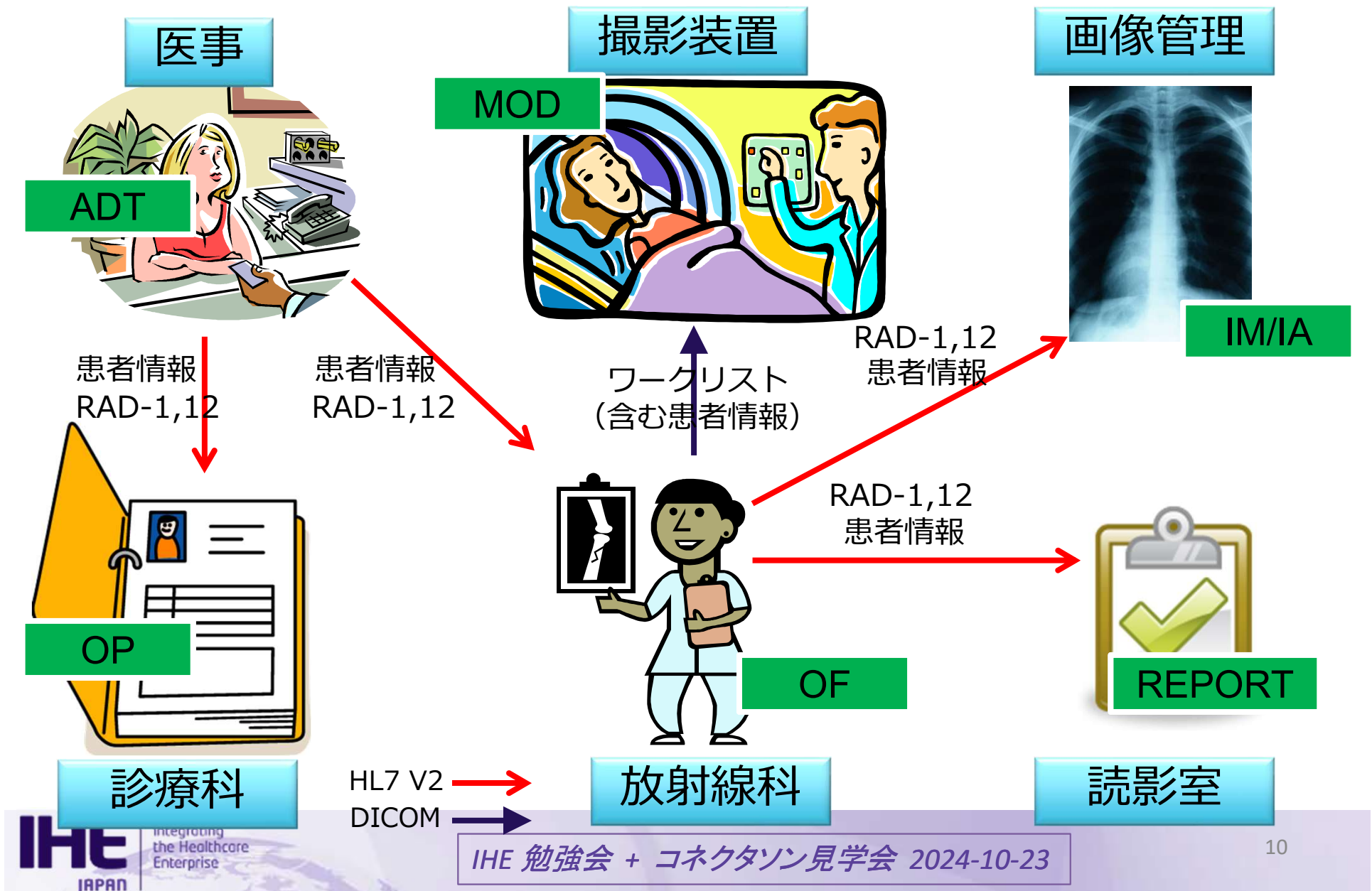
Patient Information Reconciliation

患者情報整合性確保

PIRとは

- ◆ 2010年よりITIのPAMプロファイルに審査を移行
(PAM: Patient Administration Management)
 - ◆ 患者情報の2点間連携プロファイル
 - ◆ 放射線以外のドメインもPAMは参加できる
 - ◆ PAMの組み合わせでPIRと同等とみなす
- ◆ 放射線ドメインベンダより指摘
 - ◆ 放射線部内での患者情報同期WorkFlowは必要
 - ◆ DICOM系の同期(モダリティ)も必要
 - ◆ PIRと同等になるPAMの組み合わせ方が不明 → 明確化

PIR プロファイル



PIRの審査について

◆ 実際の接続試験は放射線ドメインでは行わず、SWF.bおよびITIの以下の試験の合格をもってPIRの合格としています。

◆ 各アクターの合格基準

アクター	合格基準	具体的動作
ADT	ITI PAMで、PESとして合格	HL7 Ver.2.5 で患者情報の送信
OP	ITI PAMで、PECとして合格	HL7 Ver.2.5 で患者情報の受信
OF	ITI PAMで、PECとして合格	HL7 Ver.2.5 で患者情報の送信
	ITI PAMで、PESとして合格	HL7 Ver.2.5 で患者情報の受信
	SWF.bのOFとして合格	DICOM MWLの送信
IM／IA	ITI PAMで、PECとして合格	HL7 Ver.2.5 で患者情報の受信
MOD	SWF.bのMODとして合格	DICOM MWLの受信

放射線ドメイン実施プロファイル概要③

ARI

Access to Radiology Information

放射線情報アクセス

ARIとは

- ◆放射線部門情報に他部門からアクセスする
 - ◆他部門:救急治療室、手術室、循環器部門、治療部門など
 - ◆対象:画像、エビデンス文書、画像表示状態、キー画像ノート、構造化放射線レポート
- ◆DICOM Query / Retrieve のモデル

ARI プロファイル

画像管理

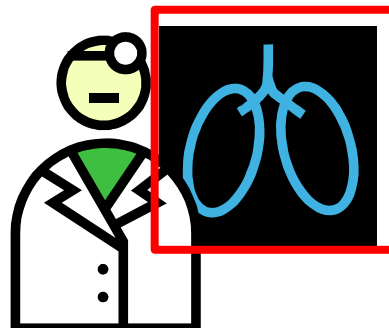


IM/IA

画像情報検索

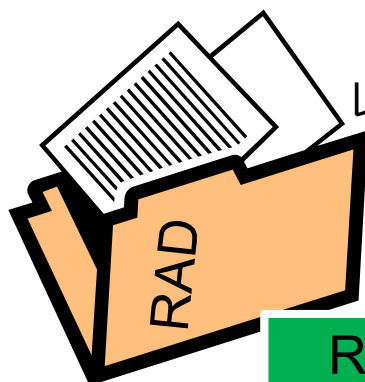


ID



読影室

レポート情報検索



RRP

レポート保管

レポート情報検索



ERR

外部レポート連携

RRD

放射線ドメイン実施プロファイル概要④

PDI

Portable Data for Imaging

可搬媒体画像情報交換

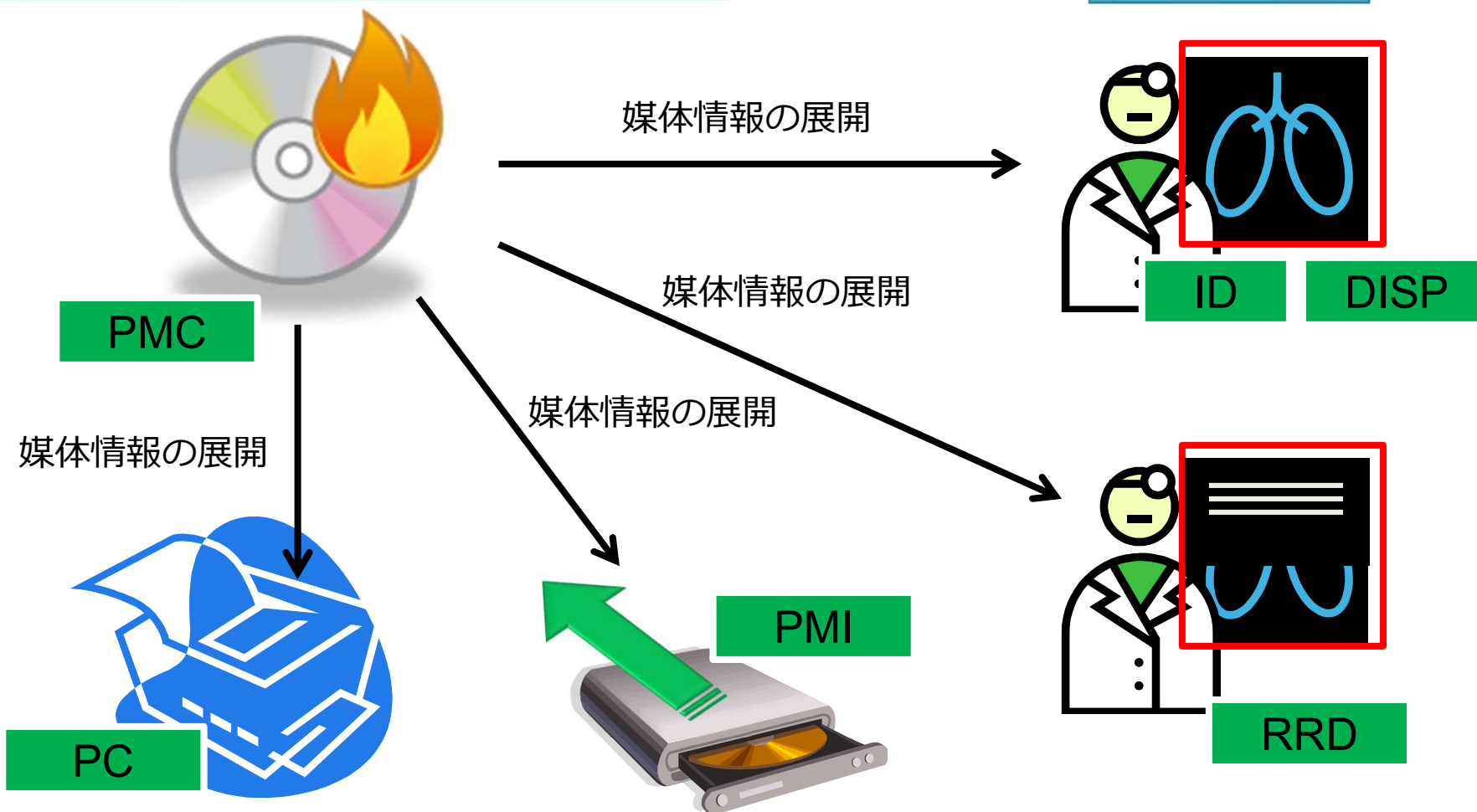
PDIとは

- ◆可搬媒体を用いた医療情報の交換
 - ◆DICOM 画像及びその他のデータを交換する。
 - ◆患者個人の記録のため
 - ◆部門間や施設間でのデータ交換のため
 - ◆非ネットワーク環境でのデータ参照のため
- ◆メディアは CD、DVD、USBなど
 - ◆日本ではCDのみ試験対象
 - ◆ISO 9660 Level1 準拠で媒体作成

PDI プロファイル

出力装置(エクスポーター)

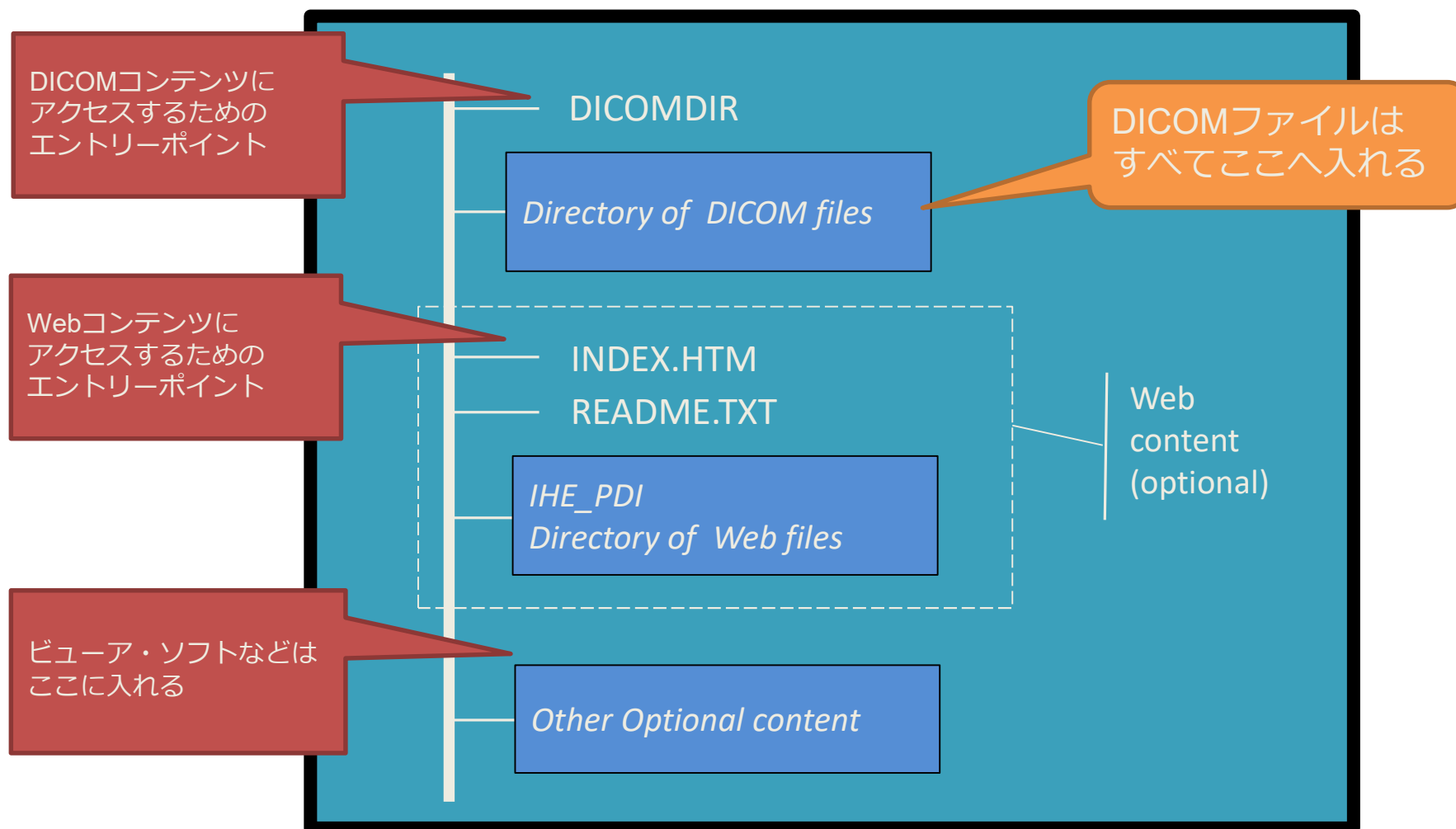
読影室



プリンタ

入力装置(インポーター)

PDI - CDの構成



放射線ドメイン実施プロファイル概要⑤

REM

Radiation Exposure Monitoring

放射線被ばく管理

REM とは

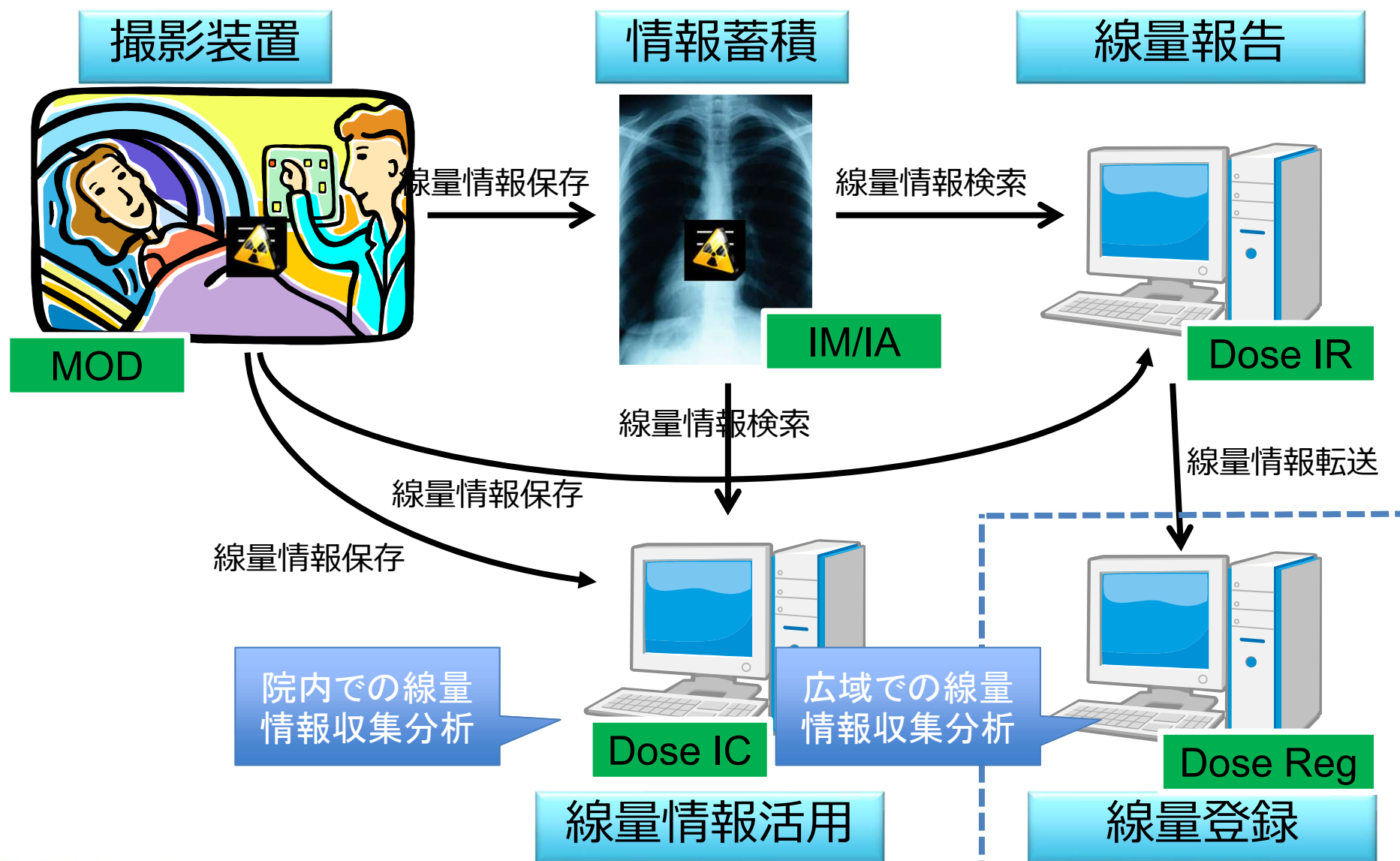
◆医療放射線被ばく線量情報の統合管理を行う

- ◆医療放射線被ばくに関するEuratom(欧州原子力共同体) 97/43指令, ACR Guidelines, IEC 62B Guidance等の遵守を支援する
- ◆線量データのパイプラインを確立する
 - ◆モダリティから線量データを出力、PACSでの保存、線量管理ワークステーションでの受信と解析、線量情報登録所への登録
- ◆REMに対応した製品が各ベンダーから販売されている

◆DICOM RDSR に基づく規定である

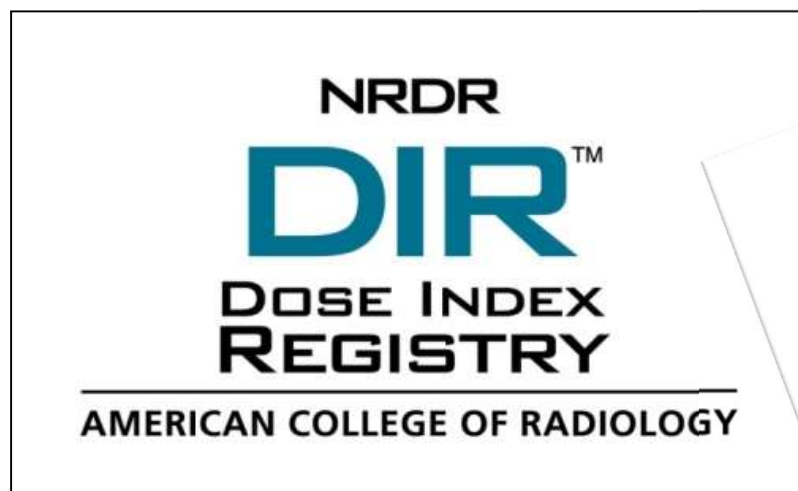
RDSR : Radiation Dose Structured Report

REM プロファイル



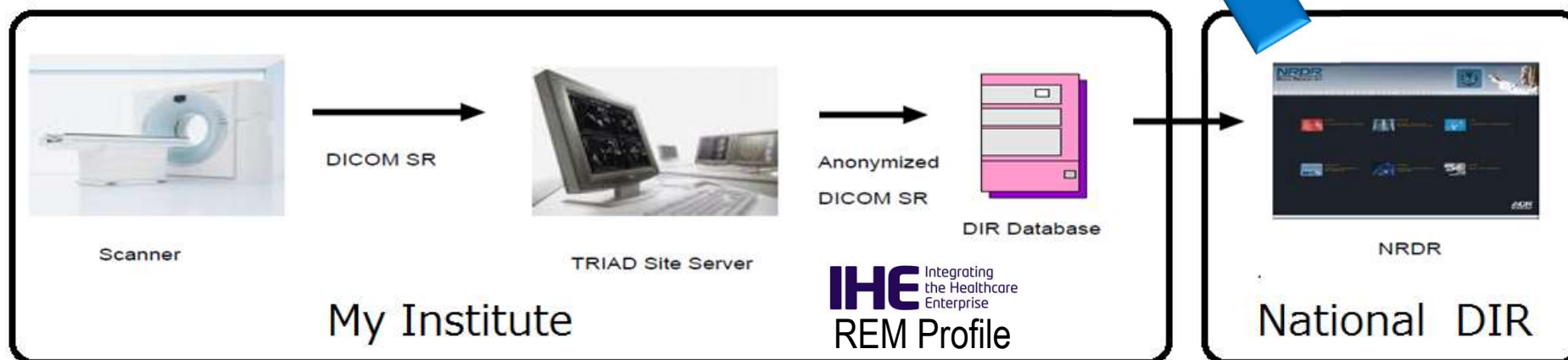
海外における広域医療情報システム

- 米国の放射線被ばく線量管理データベース



* 引用 1

* 引用 2



引用 1) ITEM2004 『Patient Dose and Related Activities in the U.S. – Radiation Exposure Management Efforts』; Christopher Carr; Director of Informatics, RSNA

引用 2) 2013 秋季 医療情報分科会シンポジウム『医療被ばくの管理のために使うDICOM情報 - 今 どこまでできるのか -』; 鈴木 真人; JIRA

放射線ドメイン実施プロファイル概要⑥

REM-NM

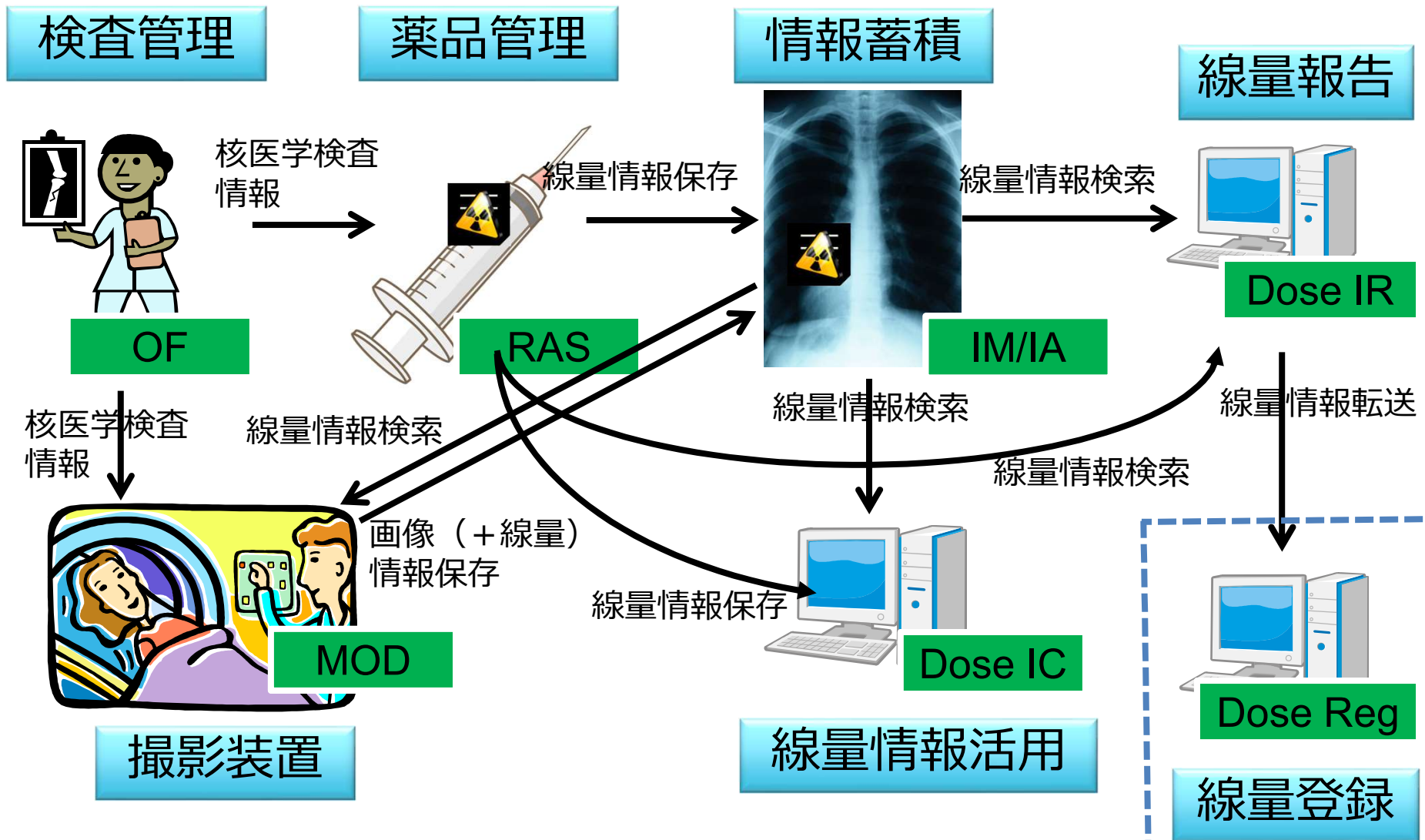
REM for Nuclear Medicine

核医学検査の放射線被ばく線量管理

REM-NM とは

- ◆核医学検査の被ばく線量情報の統合管理を行う
- ◆DICOM Radiopharmaceutical RDSR(RRDSR) に基づく規定である
 - ◆基本的な思想はREMと同じ
 - ◆線量がモダリティによって発生せず、事前投与した薬剤より発生する。
 - ◆RAS Radiopharmaceutical Activity Supplier アクタより投与薬剤の線量情報を RRDSR にてIM/IAへ送信
 - ◆Modality は IM/IAより RRDSRにて線量情報を得て、画像情報に転記を行い、IM/IAに画像を送信

REM-NM プロファイル



各プロファイルの詳細

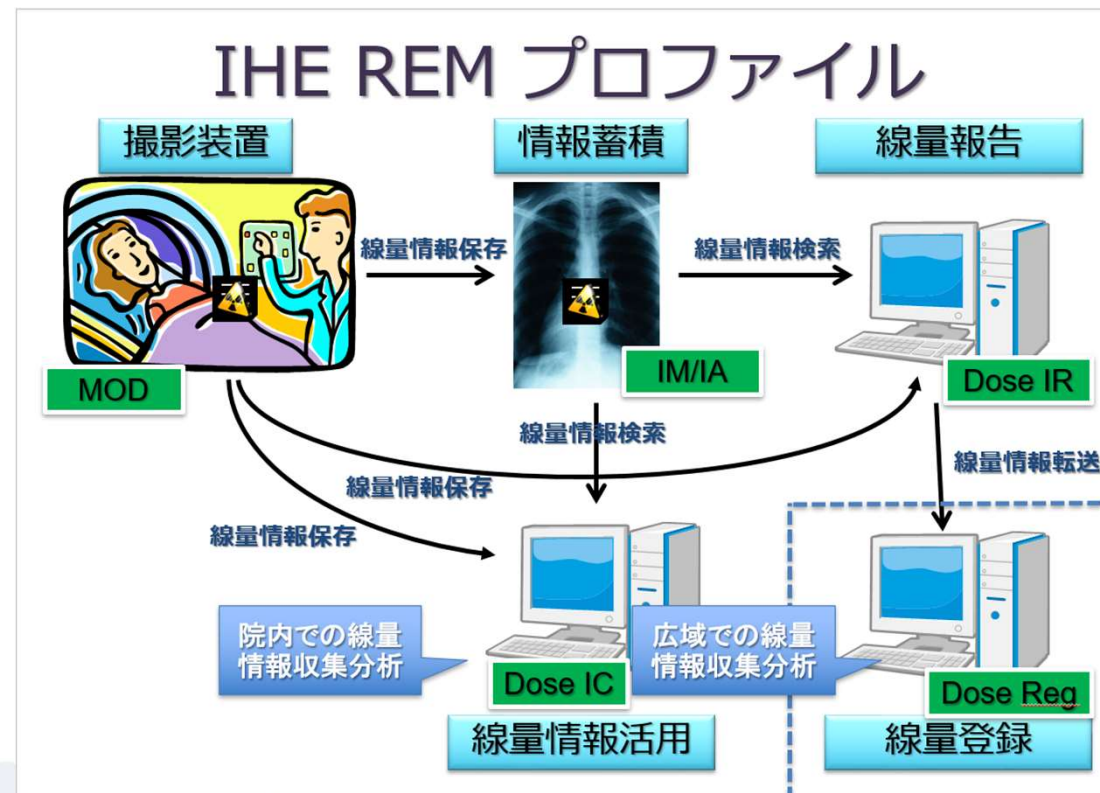
各プロファイルの詳細については原文およびIHE-J
ホームページにある 和訳 を参照して下さい。

https://www.ihe.net/resources/technical_frameworks/#radiology
<http://www.ihe-j.org/tf/index.html> にある「放射線分野」

- Volume1, 1x : プロファイルの詳細
- Volume2, 2x : プロファイルを構成するアクターと
トランザクションの詳細
- Volume3 : トランザクション間の仕様とコンテンツの仕様
- Volume4 : 国別拡張(日本要件は第10章に記載)

コネクタソン見学会説明プロフィール

- 見学会ではREM(放射線被ばく管理)の試験および審査の様子を見学いただきます。



ご静聴ありがとうございました。

無断転載禁止

**Copyright 2024
日本IHE協会**